

これがモルゴーア・クアルテットだ！

メディア上で“異色の”とか、“挑み続ける”などと表現される弦楽四重奏団「モルゴーア・クアルテット」が、4月、鳥取県に初めてやってきます。果たして「モルゴーア・クアルテット（以下モルゴーア）」とは？

モルゴーアのここがスゴイ

スゴさ① メンバーは凄腕揃い



メンバーは、第1ヴァイオリンの荒井英治さん（元東京フィルハーモニー交響楽団 ソロ・コンサートマスター 他）、第2ヴァイオリンの戸澤哲夫さん（東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター）、ヴィオラの小野富士さん（元 NHK 交響楽団次席ヴィオラ奏者）、チェロの藤森亮一さん（NHK 交響楽団首席チェロ奏者）と、いずれも日本の名だたるオーケストラで大活躍中の名手ばかり。その実力は言うまでもありません。

スゴさ② ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲を演奏するために結成

モルゴーアは、旧ソビエト連邦時代の作曲家であるドミートリイ・ショスタコーヴィチが残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するために1992年秋に結成されました。その全曲演奏はもちろんのこと、様々な試みに挑戦し続けながら活動の続け、2021年でキャリア29年を誇ります。4月の演奏会でも、もちろんショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲は外せません。

スゴさ③ 大の“プログレマニア”が挑むモルゴーア流プログレッシブ・ロック！

リーダーで第1ヴァイオリンの荒井英治さんは、なんと自他ともに認める大の“プログレッシブ・ロックマニア”。その荒井さんが編曲を手掛けたプログレッシブ・ロック曲の演奏は、一部のモルゴーアファンの中で“裏メニュー”として知られていましたが、噂が噂を呼び今ではショスタコーヴィチと並ぶモルゴーアの二枚看板に。4月の演奏会では、荒井さんが特に思いを寄せるエマーソン・レイク&パーマー（EL&P）の「タルカス」が演奏されます。

日本屈指の弦楽四重奏団「モルゴーア・クアルテット」の鳥取初コンサートにご期待ください！

〔演奏曲〕

ハイドン 弦楽四重奏曲第67番「ひばり」

ショスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲第4番

エマーソン・レイク&パーマー「タルカス」

